

プレ専門ゼミ (2年次後期)

【ゼミのテーマ】 「グローバル化と観光」(入門編)～「観光」という切り口(「観光人類学・観光社会学・国際観光学」)からグローバル化とローカル化のせめぎあう現代世界を読み解き、異文化を理解し、自文化を紹介する方法を模索する。

【ゼミのテーマ】 「観光」、もしくは、「国際観光」という切り口から、グローバル化とローカル化のせめぎあう現代世界を読み解いてみよう。国際観光客数は2002年に7億人をこえ、今後増大を続けて2020年には16億5000万人に達すると予測されている。

国際観光業は世界最大規模で最も成長率の高い産業である。近年、従来はあまり観光に関心を払ってこなかった文化人類学や社会学など多くの分野でも、観光という現象が真剣、かつ、本格的に研究され始めている。

その中の一つが観光人類学で、観光を切り口にして、グローバル化とローカル化がそれぞれの地域でいかに切り結ぶか、その結果、文化の同質化が起こって、地元の文化は消滅してしまうのか、それとも、新たな文化が誕生するのかといった問題を、具体的、かつ、詳細に検討しようとしている。

“Think globally, act locally”(地球規模で考え、足元から行動を)という言葉があるが、「グローバル」な問題を「ローカル」な場できちんと捉えなければ、国際関係論も、国際協力も机上の空論に終わってしまう。観光研究は国際関係論、国際協力・交流論、地域研究が相互補完的に切り結ぶ場であるので、三つのコースのいずれを志望する学生も受け入れる。

ディスカッションを重視しながら、テキストを輪読する。DVDなど映像資料を出来る限り多く使い、理解の促進を図る。

テキスト：山下晋司『バリ～観光人類学のレッスン』(東京大学出版会)